

「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進」チーム 勉強会

日時：平成26年12月1日（月）10:00～12:00
会場：永田町合同庁舎第1共用会議室

(1) 講演

テーマ：「性別による被災の困難の違いと支援の必要性
～支援ネットワークの可能性と課題」

講師：池田恵子 静岡大学教育学部教授
浅野幸子 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員

概要：

東日本大震災において、人々が直面した困難には性別・立場別の違いがあったということで、生活環境・安全面の困難、家庭・社会生活面の困難の具体例の後、取組事例を紹介されました。

その中で、どのような支援がどのような流れで行われたかを示しながら、被災地外で異なるセクター間・業種間の連携が少なかったと指摘されました。

その後、どんな連携が支援を有効に機能させ、どんな課題があったかということで、「他団体に必要な情報や支援、連携の可能性を考える姿勢」「「視点が違う」人同士の連携の必要性などをご説明いただきました。



(2) ワークショップ①

テーマ：「支援資源の共有」

講師：池田恵子 静岡大学教育学部教授
浅野幸子 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員

概要：

各テーブル(1グループ5名程度)に置かれた下記マトリクス表(前回アンケート結果を記入)に、ヒト・モノ・カネ・情報の視点で、自分の団体や他の団体がどんなことをしたのか・できるのかについて、書き込みしながら意見交換をしていただきました。

その後、ワールドカフェ方式で、各グループの一人を残して移動し、別のグループの方たちとマトリクスを見て、さらにできることを書き込み意見交換を行いました。

団体名 (例)	ヒト マンパワー、専門性、人脈など	モノ 物資、場所、交通・物流手段など	カネ 募金、基金、助成金など	情報 各種支援情報等の発信
〇〇協会				
△△協議会				
□□連合会				

(3) ワークショップ②

テーマ：「地域特性を生かした災害時ネットワーキングの検討」

講師：池田恵子 静岡大学教育学部教授

浅野幸子 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員

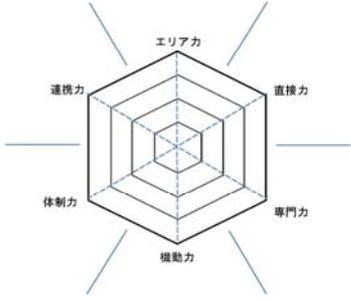
概要：

右記のフォームに下記の観点より、自分の組織について自己診断しながら記入してもらいました。

- ・エリアカ
- ・直接力
- ・専門力
- ・機動力
- ・体制力
- ・組織力

その後、グループ内で各自の自己診断結果とネットワークの可能性について報告、相互に意見を出し合ってもらいました。

最後に、各グループからどのような可能性が浮かび上がったか各グループから報告いただきました。

組織名：	記入者：
	
<p><指標の説明> この指標は団体の特徴をつかむためのもので、団体自体や災害時の活動の良しあしを測るものではありません。</p> <ul style="list-style-type: none">・エリアカ（全国域(大)～都道府県域～市町村域～(小)）・直接力（被災者個人へのアプローチが近い(強)、遠い(弱)か）・専門力（専門性が高いか低いか、専門性は専門職に限らない）・機動力（移動性や意思決定などのスピードや取り組みの柔軟性の高低）・体制力（組織内の結束や事務局体制を含む調整力・持続力などの高低）・連携力（多様な団体や異種グループとの連携が多いか少ないか）	
自分の組織の特性についての説明	
他の人からの意見	
平時からの取組み（必要性や有効性の観点から）	
〔シート作成〕 減災と男女共同参画 研修推進センター	